

先日、北海道札幌市でもようやく桜の開花が宣言されました。一方で、沖縄気象台は沖縄地方が梅雨入りしたと見られると発表しました。改めて縦に長い日本の地形と気候の特徴を思い知らされます。

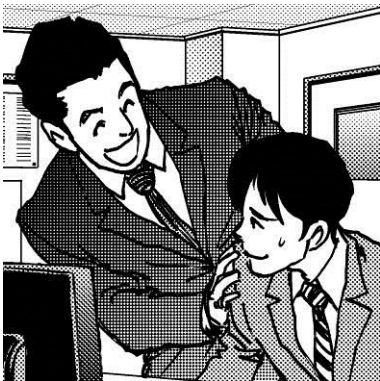
天候気候に対しては、例え晴れた日が好きであろうと、雨天が嫌いであろうと、その日その日の天候を受け止める以外には、どうしようもありません。自分の力ではどうしようもないものを嫌うことは、結果として不幸な結果を招いてしまうものです。

同じ受け止めるなら、「雨のお陰で作物が育つ」「雨が降ってくれるから、夏の水不足の心配がなくなるのだ」と、見方を変えれば、嫌だと思っていたものも、喜びと感謝の対象にすることは可能です。そのような人は、心豊かに生きることとはどういうことか知る人なのです。どのような思いで対処するか、行動するかが、起こる出来事に関係なく、その人の幸不幸の境目となります。

平成二十五年度が始まる前に、倫理法人会の役員を受けるべきかどうか迷っている経営者A氏がいました。

A氏は所属する会の流れから言えば、受けるべき立場にありました。しかし、自身の会社の経営が最悪の状態にあつたのです。そこで、信頼すべき先輩に役員を受けるべきかどうか、相談をしました。すると、先輩から、「役職の話が巡って来たということとは、君自身にとっても必要だから来ているという

## 環境に意義を見いだし 幸福を招く達人となれ



絵・今谷 鉄柱

一面もあるので、ぜひ喜んで受けた方が良いでしょう。そして、今君の会社の経営が苦しくても、倫理法人会と会社経営と家庭は、三位一体の関係にあるから、倫理法人会の役職を真剣に行かない会を發展させれば、必ず会社の経営も良くなる」と背中を押されました。

その後、A氏は先輩の言葉を信じて役職を受け、一所懸命に会のために尽力しました。八カ月が経過した現在、会社は最悪の状態を脱することができ、改めて「三位一体の関係」を実感しているといいます。

一方で、昨年9月から役員を受けて、モーニングセミナーをはじめとする各種行事をとりあえず滞りなくこなして来た役員B氏があります。ところが、B氏にはこれといった変化はありませんでした。年度の終盤に突入した現在、達成感よりも疲労感が勝る今日この頃となっております。

倫理法人会活動によって、良き変化のあつた役員とそうでない役員との差はどこにあるのでしょうか。

A氏は、これからのわが地域と日本には、倫理実践者の拡大が必要であると、倫理法人会活動に意義を見いだしています。一方で変化の見られないB氏は、未だ活動の意義を見つけられず本気で活動に取り組めていない現状にあります。

いかなる環境に対しても、そこに意義を見いだせる人が、人生の達人であり、幸福を招くことができる真の実践者といえるのです。